

学校長期自然体験活動指導者養成研修

事業の概要

事業のねらい 「小学校の1週間程度の自然体験活動」において、教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供するために、プログラム計画立案の助言、活動時の全体指導や活動の様子の把握と助言、事業評価の助言などを行う指導者を養成する。

期 日 平成22年 9月17日(金)～ 9月20日(月) 3泊 4日

会 場 国立那須甲子青少年自然の家

参加対象 青少年教育関係者、学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心があり、小学校が実施する長期自然体験の全体指導者として支援する意志がある20歳以上の方

参加者数

(参加募集人数) 15名(20名)

講師

平田 裕一氏(至学館大学 教授)
 進藤 哲也氏(独立行政法人国立青少年振興機構教育事業部 企画・推進課長)
 斎藤 明美氏(日本ボーイスカウト栃木県連盟事務局次長)
 馬渡 達也氏(くりこま高原自然学校職員)
 桑原 信氏(学校長期自然体験活動全体指導者)
 平野 健一氏(学校長期自然体験活動全体指導者)
 佐藤 修 (国立那須甲子青少年自然の家 所長)
 箭内 貞男 (国立那須甲子青少年自然の家 事業推進室長)
 小林 己伸 (国立那須甲子青少年自然の家 企画指導専門職)

日程

	7:00	9:00	12:30	13:30	15:00	17:00	18:30	20:30	
9 / 17 (金)			受 付	開 講 式	学校教育に おける体験 活動の意義	教育課程と 体験活動の 関連性	つ ど い	交流会	入 浴
9 / 18 (土)	つ ど い	朝 食	体験活動の指導法及び技術 * 昼食時間1時間を含む		体験活動の技 術 (野外炊飯)		入 浴		
9 / 19 (日)	つ ど い	朝 食	体験活 動にお ける安 全管理	プログラムの企画立案・演習 * 昼食時間1時間を含む		つ ど い	夕 食	企画プロ グラムの 評価	入 浴
9 / 20 (月)	つ ど い	朝 食	救命救急 法	閉 講 式	解 散				

プログラム紹介



「学校教育における体験活動の意義」

体験活動の目的とその効果について理解を深めた。



「体験活動の指導方法及び技術」

ネイチャーゲームなど自然の中で楽しく活動できるさまざまなゲームを体験した。



「体験活動の指導方法及び技術」

野外で班ごとに協力しながらカレー作りを行った。



「体験活動における安全管理」

自然体験活動中に起こると予想される事故や災害について理解するとともにそれを回避するための危機管理について学んだ。



「プログラムの企画立案・演習」

当所を利用する東京都心の学校を想定して、教育効果を考えてプログラムをグループごとに企画・立案した。



「救命救急法」

消防署員の指導の下、消防庁認定の「普通救命講習法」を実習した。

企画運営のポイント

参加者が当研修修了後の活動の場を考える際の参考になるようすでに同研修を修了している全体指導者を今回の講師として招聘した。

受講者のほとんどが学校教育以外の職業従事者であることから学校教育についての理解を深めるために参加者全員に学習指導要領を購入、配付した。

プログラムの企画・立案の際に多方面からアプローチできるように当所で活用しているさまざまなプログラム集、施設案内パンフレット等を資料として配付した。

事業を終えて (成果と課題)

参加者全員が目的を持ち積極的に参加していたので、それぞれが作成したプログラムに対し、活発な意見交換が行われた。

さまざまな職業、年齢の方々がグループ活動を行うことで深く関わり、参加者同士のネットワークが構築できた。

今後、当研修を修了した全体指導者のスキルアップも含めて、活躍の場をいかに提供していくかを考える必要がある。

プログラム立案・演習の展開

プログラムのねらい 一人ひとりがプログラム企画書を作成し，グループごとに検討し1つのプログラムとしてまとめ，全体で評価を行うことで学校が求めているプログラムとはどのようなものかを理解する。

展開例 講義と演習・実習を行うことで自然体験活動の活動内容をイメージした上で，各自が実際にプログラムを組んでいく。一人ひとりのプログラムを持ちよりグループで一つのプログラムを完成させ，最後に全員で評価し合っていく。

ステップ1



課題を東京23区内の小学校5年生1クラス30名，3クラス，実施時期を5月中旬から下旬で2泊3日の日程と設定した。

まずは，一人ひとりに設定された条件に対して当所の「利用の手引き」「活動プログラム集」「所周辺の地図」等を活用して自分なりの工夫を入れたプログラムを作成した。

ステップ2



一人ひとりが考えたプログラムをグループごとに持ちより，よりよいプログラムにするため討議を重ねる。小学校5年生として活動時間に無理はないか，安全の配慮は確実か，内容は目的に合っているかなど，それぞれの考えを尊重しつつ一つのプログラムにまとめていく。

ステップ 3



グループ討議中，わからないことや，小学校 5 年生の様子，なすかしのフィールドについて疑問が浮かんだらすぐに職員がアドバイスできるような体制を取った。しかし，なんでもすぐに回答するのではなく，考えてもらうべき内容はグループで討議するようにした。

ステップ 4



各グループがまとめた 2 泊 3 日のプログラムを発表し合った。発表したグループに対し，他のグループから質疑を受け，プログラム内容の中ですばらしいと感じた点や改善点などを協議した。最後に，講師より講評を受けた。

プログラム効果

多種多様な職業，年齢の受講者からそれぞれの視点に立ったアクティビティを考えた後に，プログラムの企画立案をグループで共有することで，教育現場で実践する際のイメージをつかむことができた。

今回受講者が企画立案したプログラムは，自然体験活動プログラムの 1 つとして活用することができ，当所を利用する団体に提案することができるものであった。